

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月28日

【評価実施概要】

事業所番号	873900385		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム 千代田の里		
所在地	かすみがうら市東野寺495-1 (電話) 0299-23-1122		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年2月21日	評価確定日	平成20年7月28日

【情報提供票より】(平成19年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤 18人, 非常勤 3人, 常勤換算	20.44人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋 造り 1階建ての ~ 1階部分		
------	---------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(平成19年12月31日現在)

利用者人数	27 名	男性 11 名	女性 16 名
要介護1	3名	要介護2	8名
要介護3	8名	要介護4	5名
要介護5	3名	要支援2	
年齢	平均 78 歳	最低 58 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	つくば病院・パレスメディケア病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者・職員は、「人権の尊重・個別のケア・社会交流」の理念に基づき、利用者一人ひとりに寄り添い、その人らしく地域の一員として暮らせるよう、理念を共に意識しながら日々のケアに取り組んでいる。
共用空間の大きな窓からは、隣接する保育園の園庭で遊ぶ元気な園児の姿を目にすることができ環境となっており、日常的に園児とふれあい、微笑ましい関係を構築している。
設置法人の運営する医療機関や希望に応じて歯科・眼科の訪問診療が受けられる医療体制が充実している。
利用者の能力を見極め、特技や趣味を活かして発揮できる場面があり、法人内の芸術祭に水彩画を出品するなど、社会参加をしながら豊かな暮らしを支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果、課題となった介護計画の見直しや家族の同意、温度管理、口腔ケアの重要性など、職員会議で話し合い改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者と職員が意見交換をしながら自己評価に取り組み、棟毎に管理者がまとめている。 外部評価の結果を職員に周知するとともに、課題の改善に取り組むなど、サービスの質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 委員は利用者・利用者の家族・民生委員・市役所職員等で構成し、第1回の運営推進会議を開催したが、意見交換の場としての取り組みまでには至っていない。 地域の理解と支援を得るための機会として、運営推進会議の意義や役割を十分理解するとともに、意見・要望を受け、サービスの質の確保を図る取り組みを期待する。 外部評価の報告を行うとともに、運営に関する相談や助言を得たり実情を伝えたりする機会があり、市の担当者との連携を図っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームの苦情相談窓口や担当者を配置するとともに、県や市などの外部機関を重要事項説明書に明示している。 また、玄関に意見箱を設置している。 月1回介護相談員を受け入れ、家族から気軽に意見を聞けるよう、面会時に声かけをしている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 隣接する保育園児と交流するほか、小学校の文化祭や運動会に参加している。 ホームで行う行事に参加を呼びかけるとともに、地域のボランティアを受け入れ、積極的に交流を図っている。 また、毎週日曜日に、ホーム周辺の道路を清掃活動している。
	重点項目④

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の一員としてその人らしく暮らし続けられるよう、地域に目を向けた理念を継続している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念のほかにホームの目標を掲げ実践している。 また、棟会議において理念を踏まえたサービスの見直しや話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する保育園児と交流するほか、小学校の文化祭や運動会に参加している。 ホームで行う行事に参加を呼びかけるとともに、地域のボランティアを受け入れ、積極的に交流を図っている。 また、毎週日曜日に、ホーム周辺の道路を清掃している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員が意見交換をしながら自己評価に取り組み、棟毎に管理者がまとめている。 外部評価の結果を職員に周知するとともに、課題の改善に取り組むなど、サービスの質の向上に努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員は利用者・利用者の家族・民生委員・市役所職員等で構成し、第1回の運営推進会議を開催したが、意見交換の場としての取り組みまでには至っていない。	○	地域の理解と支援を得るための機会として運営推進会議の意義や役割を十分理解するとともに、意見・要望等を受け、サービスの質の確保を図る取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価の報告を行うとともに、運営に関する相談や助言を得たり実情を伝えたりする機会があり、市の担当者との連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌「里だより」を毎月発行し、行事やお知らせ・職員紹介等を掲載しており、家族に送付している。 また、家族の面会時や電話で健康状態及び生活の様子等を伝えるとともに、金銭の出納状況についても報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの苦情相談窓口や担当者を配置するとともに、県や市などの外部機関を重要事項説明書に明示している。 また、玄関に意見箱を設置している。 月1回介護相談員を受け入れ、家族から気軽に意見を聞けるよう面会時に声かけをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が棟間に行き来する機会に職員と馴染みの関係となるよう配慮している。 離職や異動等職員が代わる場合は、利用者に挨拶するとともにその後も遊びに来てくれるなど交流を続けている。 また、家族へは里だよりにて周知している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の採用時や段階に応じた研修を受講するとともに、内部研修を取り入れている。 外部研修を受講した職員が職員会議で研修内容を報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城県認知症高齢者グループホーム協議会に加入するとともに、近隣のグループホームと交流する機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には職員が自宅を訪問したり、本人や家族に見学に来てもらい、ホームの雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段の会話の中で、昔からの風習や行事など利用者から教えてもらったり、昔話に共感したりしている。 利用者とともに、協働しながら和やかな生活が送れるよう努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりの中から思いや意向を把握するよう努めるとともに、利用者の視点に立って意見を出し合い討議している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開き、利用者・家族の意向を踏まえて、職員の意見等を取り入れた介護計画を作成している。 作成した介護計画を家族に確認し、サインや押印を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示するとともに、期間終了後にサービス担当者会議にて話し合い、見直しをしている。 また、期間内でも利用者に変化が生じた時は、随時棟会議で検討し、新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助・家族の宿泊支援など、利用者・家族の要望に応じた柔軟な支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前に医療機関から本人の既往歴等の情報を得ている。 本人や家族の希望を聞き、継続した医療が受けられるよう支援している。 また、希望に応じて歯科・眼科の訪問診療が受けられる支援体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応は、利用者や家族の意思を確認し、医療機関と連携を図り取り組んでいるが、書類やマニュアルなどの体制を整備するまでには至っていない。	○	重度化に伴う意思確認の書式を整備するとともに、対応マニュアルを作成するなど、終末期に向けた体制を整備することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の利用目的を明確にし、家族の同意を得るとともに、記録等は事務所にて保管している。 職員は利用者に寄りそい、優しく接しながら誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースで生活できるように、利用者の思いを尊重している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど利用者のできることを一緒に行ったり、利用者の食べたいものの支援をしているが、職員はお弁当を持参している。	○	同じ物を食べることにより、味付けや食感などに気付き、ホームの特性を踏まえて利用者と一緒に食事を楽しめる環境づくりを検討することを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制があり、生活習慣や希望に応じた支援を行っている。 また、菖蒲湯や柚子湯を行い、季節感や香りを楽しめるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの特技や趣味を活かして発揮できる場面をつくっている。 また、お弁当を持参して出かける行事を取り入れたり、地域行事へ参加したりしている。 利用者の水彩画を法人内で開催する芸術祭に出品するなどの社会参加により、豊かな暮らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を取り入れ、散歩や買い物、ドライブ等日常的に戸外に出かけている。 毎日散歩に出かけるなど、利用者の生活習慣に応じた支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に出入りの状況がわかるようセンサーを設置し、利用者の安全面に配慮するとともに、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。 利用者の心身の状況や行動を把握し、危険回避に努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て、消火・避難訓練を実施するとともに、ホーム内で毎月災害を想定した避難訓練を行っている。 また、地域の協力が得られるよう、民生委員を通して依頼している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士によるバランスのとれた献立となっており、利用者の嚥下状態等に配慮した食事を提供している。 1日を通して利用者一人ひとりの栄養・水分摂取量を把握するとともに、摂取状況を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂の大きな窓からは、隣接する保育園の園庭で遊ぶ園児の姿を目にすることができる環境となっている。 季節の花や利用者の水彩画を飾り、調理する匂いや音等を感じ取り、ゆったりしたスペースの中で居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や家具・テーブル・ソファ等、利用者の馴染みの物品の持ち込みや好みの物を飾り、安心して過ごせるよう環境づくりに配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。